10月 チームこうようだい

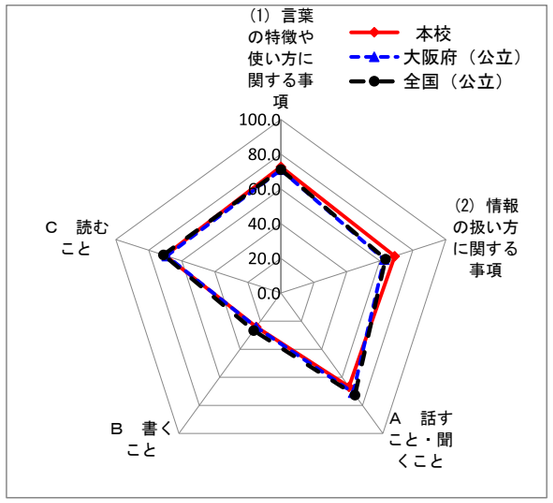
１０ 月 臨 時 号
富田林市立向陽台小学校
校 長 澤 口 雅 彦

令和5年度　全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせいたします。

本調査結果は学力や学習状況の特定の一部分であり学校における教育活動の一側面であります。学校として、以下の結果について真摯に受け止め、子どもたちの学力並びに学習意欲の向上に努めてまいります。
保護者の皆様には、さらなるご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

【学力状況調査】　＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞

【　国　　語　】



課題

・本校の児童は、言葉の意味理解（手順、提案、説明等）を正しくできず、間違った選択をしていた。言葉の力を付けていくことが課題であることが分かった。
・文章と図をつなげて考えることも課題である。国語だけではなく、様々な教科で目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付け、気付いたことや分かったことを表現する機会を意識的につくる必要がある。

全体的な状況

・平均正答率は全国平均とほぼ同じである。領域別では「情報の扱い方に関する事項」が全国平均より5ポイント以上、上回っていた。
・個別問題では「送り仮名に注意して、漢字を分の中で正しく使う」問題が6.9ポイント上回った。
・文章の要点をとらえて、簡潔に書くことに課題が見られる。また、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえることができる力を付けていくことが課題である。

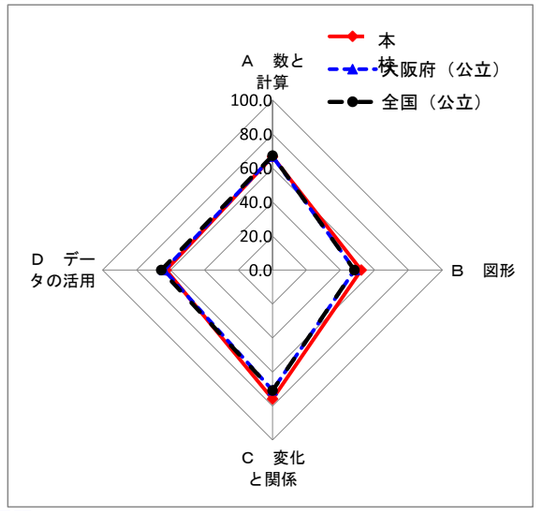
成果

・全学年で教科書の「たいせつ」を大切にして学習に取り組んできたことによって、情報の取扱い方、言葉の特徴や使い方については、６年生として付けるべき力を身に付けることができつつあると考える。
・習った漢字を繰り返し復習することも成果となって現れてきた。

課題解決に向けた取組み

・日ごろ曖昧なままに使っている言葉を正しく理解するために、国語辞典を活用する。
・読書活動を積極的に取り入れ、様々な言葉や文に触れる機会をつくる。
・国語にみならず教科横断的な学習で、文章と図表を結び付けて考えることを意図的に取り入れることによって、情報を正しく読み取る力を付ける。
・目的を明らかにして、「書く」学習に今後も取り組んでいく。

【　算　　数　】



課題

・子どもたちの誤答から、「以上」という言葉の意味を理解していないことが分かった。「以上」のように日常生活で多用していても実際に、その意味を正確に理解しているとは言い難い。
・「国語辞典」と「漢字辞典」の取違が全国よりも多かった。問題の全体を見て、数字や式と図表を見比べ、何に注目すべきかを確認することもできるようにしたい。

全体的な状況

・平均正答率は、全国を上回った。領域別では、「B図形」「C変化と関係」が全国平均より4～5ポイント上回った。
・個別問題では、「「比例の関係を用いて知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」問題が13.5ポイント上回り、これまでの学習の成果が見られた。
・「『以上』の意味の理解をし、示された表から必要な数を読み取ること」に課題があった。算数等の学習用語を正しくとらえきれていないことが明らかになった。

成果

・授業中に自分の考えを他者に説明したり、記述したりを繰り返してきた。そのことによって、多くの児童が口頭や、文と式や図表での説明を自らするようになった。
・記述をする際には書くための「型」を提示し、それにそって、子どもたちが書くようになったことも成果であった。

課題解決に向けた取組み

・本校の児童は,語彙力が課題である。“言葉の意味”を絵図・文字・数式、時には体験等々と結び付け、正確に理解できるようにしたい。特に算数の授業では、子どもの曖昧な表現を、担任や学級全体で正確な言葉に置き換えるようにしていきたい。
・絵図や図表を自分の言葉で説明する（他者に話す。文型を使って書く）ことを繰り返し取り組みたい。
・学習したことを他の場面で活用することが、ますます必要である。

【学習状況調査】

状況が良好な主な項目

	本校	府	全国
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	81.4	53.0	49.9
学校に行くのは楽しいと思いますか	93.2	83.8	85.3
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	93.2	70.8	68.5
5年生までに受けた授業では,課題の解決に向けて,自分で考え,自分から取り組んでいましたか	89.8	76.3	78.8
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3日～ほぼ毎日していますか	88.1	52.5	62.4

※数値は%

課題を残した主な項目

	本校	府	全国
将来の夢や目標を持っていますか	79.6	79.6	81.5
月～金曜日の１日あたりの勉強時間（学校以外）が30分より少ないか全くしない	23.7	26.3	16

※数値は%

全体的な状況と成果

・学校は、児童にとって安心できる場所であることを一番大切に考えています。
教職員が児童を認め、相談できる存在であることは、学校の楽しさにつながっていると考えられます。
・単なる知識の習得だけでなく、課題の解決に向けて主体的に学べることは今後の学習のみならず、生き方にもかかわってくる大切な力が身に付いてきていると考えられます。
・タブレットを活用した個別の学習のみならず、シンキングツールを活用した思考のトレーニングや共有ツールを活用した協動的な学びが学力の向上につながっていると考えられます。

課　題

・学力や自己肯定感は全国的にみても比較的高いと言えるが、将来の夢や目標につながっていない
・月曜日～金曜日の一日当たりの勉強時間（学校以外）が30分より少ない児童の割合が全国よりも高い

課題解決に向けた取組み

・将来の夢や目標について考えるような機会を持つ必要がある。出前授業や自分の得意や「好き」を考える機会を増やす。
・家庭での学習時間が少ない児童のうち学習が進んでいない児童には、意欲を高める手だてを講じる。
学習時間が少ない児童のうち、学習が定着で来ている児童には、自主学習などで興味関心の幅を広げる手だてを講じる。

○保護者のみなさんへ（全体を通じて）

～学校としての変化～

平成29年度の本校の結果を見ると、「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか。」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は全国の回答と比較した時に－16ポイントでした。また、「読書が好きですか」という質問に対しては－23ポイント、「国語の勉強は好きですか？」－25ポイントでした。しかし、今年度（令和5年度）の調査では、それぞれ全国比で「将来…」＋29ポイント、「国語…」＋19ポイント、「読書…」＋20ポイントとどの項目も飛躍的に上昇しています。これは、本校において長年にわたり国語科の研究に取り組んできた成果や、英語専科によるきめ細やかな指導の成果が少しずつ現れていると思われます。

～現6年児童について～

質問調査全59項目に対して、43項目において、全国比10ポイント以上上回る結果が見られました。さらにそのうち21項目は、全国比20ポイント以上の良好な結果が得られました。なお、6年生個別の結果も、後日（１１月頃）に、返却いたします。また、個人懇談会にて、担任より一人一人のお子様の状況について、お話させていただく予定です。項目の詳細は、国立教育政策研究所（https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/factsheet/primary.html）をご覧ください。
今後も児童が、安心して学びを進めていくには学校と家庭とが「児童の今の安心と将来の成長」をともに願い、「チーム学校（保護者、地域と共に）」として歩んでいくことがなりよりも大切と考えています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。